

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 87 号
2018 (平成30) 年6月16日 (土)

『自己観照』

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

辞書によれば『自己観照』とは「自分を客観的且つ冷静な心で見つめ直し、その本質をとらえること」とある。

人は皆、自分のことがわかっているようで、実は理解していないことの方が多いように思う。

例えば、会社で実績を重ね、地位がそれなりに上がるにつれ、ややもすると、“自分がいなければ会社はうまく機能しない”といった気持ちになりがちだが、実際のところ、周りの目にそうは映っていないということも少なくない。

自分にどれ程の力があるのか。自分はどれ程のことができるのか。そして、部下に対して、周りの人に対して、仕事に対して、社会に対して、家族に対して、“これでいいのか”と常に自身に問うていかねばなるまい。

人には責任感や自負心を持つことも必要であるが、言いにくいことを正面切って言ってくれる他人は自分の周りにそういないだけに、過信やうぬぼれを生じさせることになるのだ。その結果大変な失敗を犯し、意に反して周囲に迷惑を掛けることになる。

そうならないためには、“今の自分のおかれている立場や役割に似つかわしい働きをしているかどうか”を素直に自問自答する、言うなれば『自己観照』が極めて重要になるのではなからうか。そして、仮に似つかわしくないと判断したなら、周りの人に謙虚に教えを請い直していく、事と次第によってはその地位から身を引く潔さも求められよう。

本来人は弱いもので、何かあるとつい自分の責任逃れや他人に責任を転嫁しがちで、自分と向き合うことから逃げてしまいがちだ。

孔子の高弟・曾子は、一日に何度も自分の言動を顧みた。そうありがたいものである。

【お知らせ】

8月18日(土)の論語塾では、本塾初めてとなる「論語かるた大会」を実施することになりました。当日は、午後2時より30分の坐禅の後、いつもの論語の授業は行わず、かるた大会のみとなります。

学年を考慮したグループ分けをし、参加希望者(大人塾生・保護者も含む)が全員参加できるように組み合わせを工夫したいと考えております。

また、成績上位者には賞品を、参加者には全員参加賞を予定していますので楽しみにお待ち下さい。

なお、かるたの読み手は公募したいと思っておりますので宜しくお願い致します。